

令和 3 年度

依頼文

授業担当教員 各位

令和 3 年 5 月 24 日

アクティブ・ラーニングプロジェクト代表
飯 島 康 之
伊 東 正 人

アクティブ・ラーニングについての授業アンケート調査について（お願い）

第 3 期中期目標・中期計画における本学の重点目標の一つは、大学教育を通じてアクティブ・ラーニング（以下、AL）の学びを積んだ学生が、学校現場で能動的学修方法を展開できるようになることとしています。このことを全学的に取り組むために、ALを取り入れた授業を学部課程、大学院課程ともに全開講授業の 6 割以上で導入することを目標としています。

「主体的・協働的な学び」を実践できる教員の養成」であるアクティブ・ラーニングプロジェクトでは、2012 年に文部科学省が定義した AL や先進校の事例を参考にしながら、教員養成大学としての AL について検討してきました。そこで、本学ならでは 4 つの視点から目指す AL を考え、平成 29 年 3 月 29 日開催の FD 集会で『本学が 4 つの視点から目指す AL』として提案し、参加者からの意見等を集約しました。

本プロジェクトでは、本学が目指す AL を含んだ**令和 3 年度開講授業**の開講数と実施教員数の現状調査をするためにアンケートを実施します。アンケート調査の結果から、本学での AL 授業の現状、AL を導入するまでの課題を整理し、本プロジェクト遂行に向けた材料にいたします。

つきましては、アンケートについて下記の要領で実施いたしますので、ご協力のほどよろしくお願いします。

【アンケート調査主体】教職キャリアセンター・アクティブ・ラーニングプロジェクト

【アンケート対象者】令和 3 年度に愛知教育大学で授業を担当している全教員（非常勤講師を含む）

【アンケート調査の回答方法】

■常勤教員：令和 4 年 1 月 26 日（水）開催の教授会にて実施・回収する。

■非常勤講師：学務ネットを通じて依頼する。

学務ネットにログイン後、「アンケート回答」よりご回答ください。

注) 一時保存の機能はございません。また一度回答いただきますと修正はできません。

（学務ネットに ID の登録のない授業担当教員には郵送にて依頼する。）

【アンケート回答期限（非常勤講師のみ）】

・前期のみ授業を担当の非常勤講師： 令和 3 年 9 月 30 日（木）

・前期・後期の両方または後期のみ授業を担当の非常勤講師： 令和 4 年 1 月 31 日（月）

【本件に関する照会先】

(アンケート内容) 理科教育講座 伊東正人 内線 2621

(事務的内容) 教務企画課 教職キャリアセンター支援係 佐藤・吉田 内線 2717

(メールアドレス) alpj-staff@m.auecc.aichi-edu.ac.jp

配付したアンケート用紙

アクティブ・ラーニングについての授業アンケート調査

所 属 _____

氏 名 _____

※ 《事務記入欄》

注意事項

○を塗りつぶすときは、○枠をきちんとマークして下さい。
※黒色のえんぴつ、または黒色ボールペン、黒色サインペン
でご回答ください。本回答用紙は、機械で読み取ります。
丁寧にご回答ください。

《マークの仕方》 (良い例) ● (悪い例) ○ チェック はみでる うすい

下記の『本学が4つの視点から目指すアクティブ・ラーニング』をお読み頂き、学部・大学院それぞれのアンケートに回答をお願いします。また、授業科目については、**令和3年度に開講したすべての担当授業**を対象とします。アンケートはおもて・うら両面あります。本回答用紙は機械で読み取りますので、丁寧にご回答ください。

【本学が4つの視点から目指すアクティブ・ラーニング（以下、AL）】

<主体的な学びの視点>

授業内容等から学修者自らが課題を発見し、その課題の解決に向けて、問題解決型学習、体験学習、調査学習等を行うことで、認知的、倫理的、社会的能力、教養、知識、経験を含めた汎用的能力が育成されている。

<対話的な学びの視点>

学修課題及び修得した教養、収集したデータ、体験等について、グループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワーク等を行うことで、より個人の学びが深まっている。

<深い学びの視点>

単に断片的な知識や技能等を修得するのではなく、主体的及び対話的な学びの過程で、学修者の思考が活性化されることで、知識や技能等の関連が図られ、新たな概念化することができている。

<教員及び教育を支援する専門職の養成としての視点>

学修者がALの価値を実感することで、教員及び教育支援専門職に就いたときに、自らに児童・生徒に主体的で対話的な深い学びを実践できるようになっている。

【学部の授業をご担当の先生にお尋ねします。大学院の授業のみをご担当の場合は、問7へお進みください。】

問1 担当している学部の全授業科目に、上記4つの視点のうち少なくとも1つを含むALの授業はありますか？
○を塗りつぶしてください。

 ある ない

「ある」と回答された方のみ、学部の授業について、以下にお答えください。

「ない」と回答された方で、大学院の授業を担当している方は裏面、問7へお進みください。

問2 担当している全授業科目の中で、上記4つの視点のうち少なくとも1つを含むAL授業科目はいくつありますか？※同一名称の授業科目（または同内容の授業科目）を複数受け持つ場合は、それぞれを1としてカウントしてください。

(1) 担当する全授業科目数（学部）を教えてください。

--	--

 科目

(2) (1) の中で、上記4つの視点のうち少なくとも1つを含むAL授業科目はいくつありますか？

--	--

 科目

問3 同一科目の全授業回数（16回）の内、上記4つの視点のうち少なくとも1つを含むAL授業の平均回数はどの程度ですか？○を塗りつぶしてください。※科目により回数が異なる場合、最大の平均回数を回答して下さい。

 1, 2回 3~8回 9回以上

問4 上記4つの視点のうち少なくとも1つを含むAL授業の中で、取り入れている授業形態があれば教えてください。○を塗りつぶしてください。（複数回答可）

- 学生参加型授業（クリッカー、感想・質問カードの使用など）
- 学生の共同授業（グループワーク、グループディスカッションなど）
- 教員や学生が問題設定をし解決する
- 野外実習、体験実習、調査学習など
- その他（以下に記入）

« アンケートは裏面に続きます »

問5 上記4つの視点のうち少なくとも1つを含むAL授業の中で、デジタル機材を使用した授業形態があれば教えてください。○を塗りつぶしてください。（複数回答可）

- タブレット端末を用いた模擬授業
- 電子黒板やデジタル教科書を用いた模擬授業
- e-learningシステムを活用した授業
- ICT機器の効果的活用をした授業
- その他(以下に記入)

問6 AL授業（遠隔授業）でどのような工夫をされましたか。（自由記述）

『学部の授業のみご担当の先生へのアンケートは以上で終了です。ご協力ありがとうございました。』

【大学院の授業をご担当の先生にお尋ねします。】

問7 担当している大学院の全授業科目に、上記4つの視点のうち少なくとも1つを含むALの授業はありますか？ ○を塗りつぶしてください。

- ある
- ない

「ある」と回答された方のみ、大学院の授業について、以下にお答えください

問8 担当している全授業科目の中で、上記4つの視点のうち少なくとも1つを含むAL授業科目はいくつありますか？ ※同一名称の授業科目（または同内容の授業科目）を複数受け持つ場合は、それぞれを1としてカウントしてください。

(1) 担当する全授業科目数（大学院）を教えてください。

--	--

科目

(2) (1) の中で、上記4つの視点のうち少なくとも1つを含むAL授業科目はいくつありますか？

--	--

科目

問9 同一科目の全授業回数（1～6回）の内、上記4つの視点のうち少なくとも1つを含むAL授業の平均回数はどの程度ですか？○を塗りつぶしてください。※科目により回数が異なる場合、最大の平均回数を回答して下さい。

- 1、2回
- 3～8回
- 9回以上

問10 上記4つの視点のうち少なくとも1つを含むAL授業の中で、取り入れている授業形態があれば教えてください。○を塗りつぶしてください。（複数回答可）

- 学生参加型授業（クリッカー、感想・質問カードの使用など）
- 学生の共同授業（グループワーク、グループディスカッションなど）
- 教員や学生が問題設定をし解決する
- 野外実習、体験実習、調査学習など
- その他(以下に記入)

問11 上記4つの視点のうち少なくとも1つを含むAL授業の中で、デジタル機材を使用した授業形態があれば教えてください。○を塗りつぶしてください。（複数回答可）

- タブレット端末を用いた模擬授業
- 電子黒板やデジタル教科書を用いた模擬授業
- e-learningシステムを活用した授業
- ICT機器の効果的活用をした授業
- その他(以下に記入)

問12 AL授業（遠隔授業）でどのような工夫をされましたか。（自由記述）

ご協力ありがとうございました。（教授会終了後、出口設置の回収BOXに提出をお願いします。）

アンケート回収率

アクティブ・ラーニングについてのアンケート集計表

区分	教育科学系			人文社会科学系			自然科学系			創造科学系			計			
	教員	非常勤 (前期)	非常勤 (通年後期)	教員	非常勤 (前期)	非常勤 (通年後期)	教員	非常勤 (前期)	非常勤 (通年後期)	教員	非常勤 (前期)	非常勤 (通年後期)	教員	非常勤 (前期)	非常勤 (通年後期)	
配布枚数	75	47	79	33	19	71	50	5	13	42	21	61	200	92	224	516
	56	29	21	25	9	27	32	3	4	31	12	12	144	53	64	261
	74.7%	61.7%	26.6%	75.8%	47.4%	38.0%	64.0%	60.0%	31%	73.8%	57.1%	19.7%	72.0%	57.6%	28.6%	50.6%
回収枚数	52.7%			49.6%			57.4%			44.4%						

アンケート結果**アクティブ・ラーニングについてのアンケート集計表**

科目名称: 全学系

問1	担当している全科目(学部)に、4つの視点のうち少なくとも1つを含むALの授業はありますか?	選択肢	①ある	②ない		
		%	93.4%	5.4%		
		回答数	244	14		
【学部】「ある」と回答された方						
問2	担当している全科目の中で、4つの視点のうち少なくとも1つを含むAL授業科目はいくつありますか?	選択肢	学部AL導入			
		%	79.5%			
		回答数	1066/1341			
問3	同一科目の全授業回数(16回)の内、4つの視点のうち少なくとも1つを含むAL授業の平均回数はどの程度ですか?	選択肢	①1,2回	②3~8回	③9回以上	
		%	8.6%	47.1%	44.3%	
		回答数	21	115	108	
問4	4つの視点のうち少なくとも1つを含むAL授業の中で、取り入れている授業形態を教えてください。 (複数回答可)	選択肢	①学生参加型授業	②学生の共同授業	③教員や学生が問題設定をし解決する ④野外実習、体験実習、調査学習 ⑤その他	
		回答数	131	167	151 92 22	
		回答数	85	18	65 129 20	
問6	AL授業(遠隔授業)でどのような工夫をされましたか。 <自由記述>	別紙に記載されています				

令和4年2月18現在

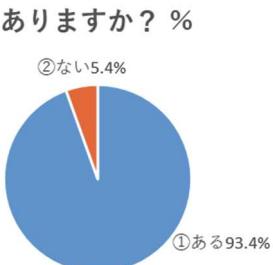
令和3年度実施分

問7	担当している全科目（大学院）に、4つの視点のうち少なくとも1つを含むALの授業はありますか？	選択肢	①ある	②ない			
		%	85.1%	14.9%			
		回答数	110	9			
【大学院】「ある」と回答された方							
問8	担当している全科目の中で、4つの視点のうち少なくとも1つを含むAL授業科目はいくつありますか？	選択肢	大学院AL導入				
		%	89%				
		回答数	317/355				
問9	同一科目の全授業回数(16回)の内、4つの視点のうち少なくとも1つを含むAL授業の平均回数はどの程度ですか？	選択肢	①1,2回	②3~8回	③9回以上		
		%	15.5%	50.0%	34.5%		
		回答数	17	55	38		
問10	4つの視点のうち少なくとも1つを含むAL授業の中で、取り入れている授業形態を教えてください。 (複数回答可)	選択肢	①学生参加型授業	②学生の共同授業	③教員や学生が問題設定をし解決する	④野外実習、体験実習、調査学習	⑤その他
		回答数	54	74	79	29	4
問11	4つの視点のうち少なくとも1つを含むAL授業の中で、デジタル機材を使用した授業形態を教えてください。 (複数回答可)	選択肢	①タブレット端末を用いた模擬授業	②電子黒板やデジタル教科書を用いた模擬授業	③e-learningシステムを活用した授業	④ICT機器の効果的活用をした授業	⑤その他
		回答数	10	4	31	59	5
問12	AL授業(遠隔授業)でどのような工夫をされましたか。 <自由記述>	別紙に記載されています					

令和3年度

問1 担当している全科目（学部）に、ALの要素を含む授業はありますか？

問1 担当している全科目（学部）に、4つの視点のうち少なくとも1つを含むALの授業はありますか？ %

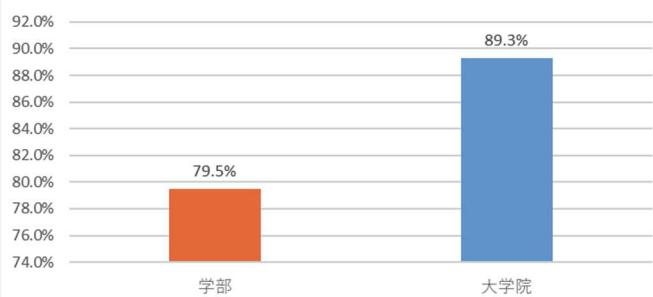


選択肢	%	回答数
①ある	93.4%	244
②ない	5.4%	14

問1で、「ある」と回答された方

問2, 8 担当している全科目（学部と大学院）の中で、4つの視点のうち少なくとも1つを含むAL授業科目はいくつありますか？

問2、8 担当している全授業科目の中に、AL授業科目はいくつありますか？

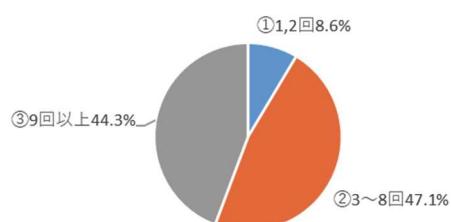


選択肢	%	回答数
学部 AL導入	79.5%	1066/1341
大学院 AL導入	89.3%	317/355

問3～問6 学部授業についての質問

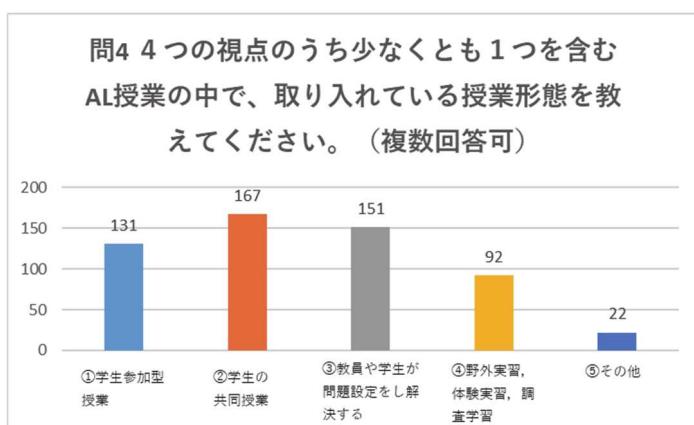
問3 同一科目の全授業回数（16回）の内、4つの視点のうち少なくとも1つを含むAL授業の平均回数はどの程度ですか？

問3 同一科目の全授業回数（16回）の内、4つの視点のうち少なくとも1つを含むAL授業の平均回数はどの程度ですか？



選択肢	%	回答数
①1,2回	8.6%	21
②3～8回	47.1%	115
③9回以上	44.3%	108

問4 4つの視点のうち少なくとも1つを含むAL授業の中で、取り入れている授業形態を教えてください。（複数回答可）



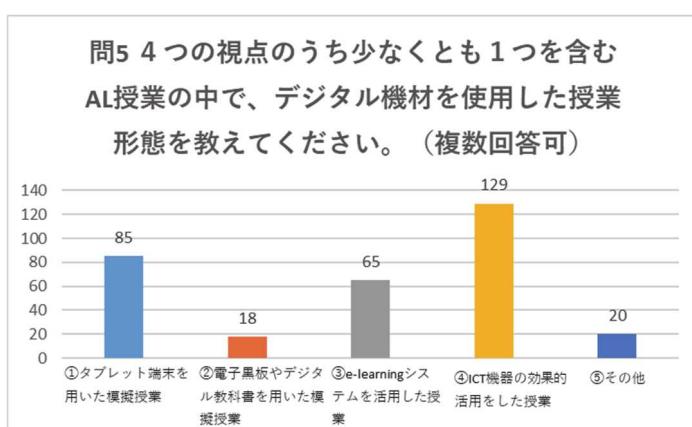
選択肢	回答数
①学生参加型授業	131
②学生の共同授業	167
③教員や学生が問題設定し解決する	151
④野外実習、体験実習、調査学習	92
⑤その他	22

問4 ⑤その他 (1)

- ・学校現場を訪問しての授業見学、担任の先生とのやり取り
- ・学びが実践に結びつきやすくなるように教材や場面を工夫した
- ・ロールプレイ ・模擬授業の計画立案、実施
- ・授業理解度をはかる小テストを授業の最後に配付し回収する。次回授業の冒頭で答え合わせ
- ・今回は、コロナ感染症のため、「できるだけ」という条件で実施したが、毎回授業の最後の3～4回分を地域素材の探究を行うワークショップの授業を実施している。そこでは、学生が地域を調査しながら問い合わせ設定し、体験的に解決し、教材としての地域の特徴をつかむ体験的な場を設けている。
- ・教員が設問を設定し、学生が過去の体験などを記述し、問題点を明確にする。問題点について学生が自身で考えた解決案を提案する。
- ・社会人に対するジョブ・インタビューの実施とその考察 ・学生によるグループプレゼンテーション
- ・グループあるいは個人のレポート発表と教員との対話 ・教員による学生参加型の模擬授業
- ・授業前に課題テストを読み、まなびネットにて意見を提出。授業中にフィードバックする。
- ・愛知教育大学附属図書館との展示企画を、図書館職員と本授業担当者で共同企画しました。新書などの不読率の高い学生に、「本嫌いをなしにする74冊（非認知能力に関する本）」から、半期授業で6冊以上を取り上げることを最低ラインとして、大学での読書教育をアクティブラーニングに実施させました。現在、文科省が「読解力」を問題にあげ、読書教育をアクティブラーニングに考える下地作りを実施しました。
- ・英語による会話作成・その練習 ・模擬授業の実施、参加 ・実験・実習 ・ポートフォリオの作成
- ・理論・古典の学習及び文字の変化を、実際に臨書をしながら体験的に学習する。その他グループワークなど
- ・実技授業（個人）の為、毎回問題提起をし、その解決を学生自身が研究している。
- ・LGBT当事者の講演会を聞く回を設け、当事者の経験や想いを聞き、それに対して800字の小レポートを課す。
- ・学生自身が材料と道具、実験装置を用意し、実験テーマ、実験方法を考え、グラフ・図・表にまとめ結論を導く活動

問4 ⑤その他 (2)

- ・「自転車に乗るのは難しいのか？」で自転車の出来る歴史の技術革新を学習する。技術という人間を便利にする技術の特許を知って、身近なことを便利にするアイデア品を調べ、便利にするアイデアを考えてレポートの提出させる。
- ・火起こしから電子ライターへの進化を読み解き、圧電素子の原理をレポートして提出させる。また、対面授業のときに火打ち石や圧縮着火器の点火を実際に体験させる。
- ・「もののけ姫」のたたらを参考に、炭やコークスと都市ガスやエンジンへの進化へと炭を作る窯の理論やたたらの作り方をレポートとして、対面授業で石炭やコークスの実物を知る体験させた。
- ・式の移項や単位変換の大切さを確認させて、どう教えるかのレポートを提出させた。
- ・アスキーコードの原理について自分で考えて文章から文字を16進数などに変換して暗号を作る体験からその重要性を理解させる。
- ・対面授業にて「プラトンボ」や「紙皿フリスピー」で出来る学生が出来ない学生に教えることにより、そのコツを言葉として表現し伝えることの難しさを知り、教えた学生が上手く出来たときの笑顔みて、教えることの喜びを体験できるように展開した。

問5 4つの視点のうち少なくとも1つを含むAL授業の中で、デジタル機材を使用した授業形態を教えてください。(複数回答可)

選択肢	回答数
①タブレット端末を用いた模擬授業	85
②電子黒板やデジタル教科書を用いた模擬授業	18
③e-learningシステムを活用した授業	65
④ICT機器の効果的活用をした授業	129
⑤その他	20

問5 ⑤その他 (1)

- ・テレビ会議システムの活用 ・まなびネット、zoom
- ・他種職連携ハイブリットシミュレータ SCENARIO を用いた学習
- ・上記の「地域課題探究」においては、発表のための資料作成を adobe の spark で作成するように指導している。spark で資料を作成することにより、将来の教員として画像を簡単に映像にまとめる経験となるため。spark で作成できない場合は、パワーポイントでの制作も可としている。
- ・Microsoft Teams ならびに Forms ・模擬授業をタブレットで記録
- ・グループ学習を進める上で、PC やスマートフォンのメールを活用するように推奨

問5 ⑤その他 (2)

- ・授業に関連する資料を集めた Web ページを作成し、アドレスを学生に公開している
- ・学生が ppt 等で発表資料を作成し、それをスクリーンにうつして発表する
- ・Teams へ動画を提出する課題 ・パソコンを用いてプログラミングの授業を行なった ・スマホ
- ・データを「学びネット」を通して配信し、手元で作品やデータを拡大しながらの授業
- ・資料をパソコンで集める ・パソコンを使用したスライドレクチャー
- ・スポーツ SP1 にて、受講者が保有する携帯端末（スマートフォン）を利用して、授業時間中の移動歩数、移動距離、消費カロリーなどを確認、記録させた。
- ・ここに書くことではありませんが、要望として私が使用している音楽棟の講義室に Wi-Fi 環境がありません。また、教育現場ではデジタル教科書が使われるようになったのに、大学にはデジタル教科書がありません。教育現場に近い環境で、大学にて「教育法」の授業を行いたいと思います。ぜひとも、音楽棟の Wi-Fi 環境等を整備してください。
- ・学生が e-leaming を作ることができる講義をしたのか、私が e-leaming を制作して学生に講義をしたのかの、どちらかが判らないので、私が制作したことについて述べます。
- ・どれを e-leaming システムと定義するのか判りづらいが講義をパワーポイントで制作して、動画として録画し講義内容が判りやすくなるような編集をして講義配信している。その後に理解度を確認するために毎回レポートの提出を求めた。よって、何度でも講義を見ることができ、判らないところを何度でも視聴できるので e-leaming とした。
- ・対面であるが、全時間 zoom を使用し、資料配付、資料提示、チャットによる回答収集、等を行っている。

問6 AL 授業（遠隔授業）でどのような工夫をされましたか。（自由記述）

問6：AL 授業（遠隔授業）でどのような工夫をされましたか①

- ・資料（論文・実践記録）を読みレポート、地域の昔話調べ、遠足計画、チラシ作りなど課題を出した。
- ・フォーラムでのディスカッション ・必ず対面の相談日を設けた
- ・zoom を活用した授業でも発問と、話し合いを進める。ブレイクアウトセッションの機能を活用する。
- ・zoom 上にゲスト講師を招いて、講義室の学生と双方向型の授業を展開した。
- ・プレゼン、ポスター発表 ・動画の作成 ・反転授業
- ・お互いの意見交換や知見を広げられるような扱いを心がけた。
- ・まなびネットのフォーラムの活用 ・課題を出し、フィードバックを行なった
- ・対面で 3 審に注意して講義したため、遠隔授業は行なっていない
- ・グループで対話する機会をつくった
- ・すべての授業の資料や動画等をいつでも学生は e-learning で参照できます。
- ・学生の授業参加、協同学習を重視しています。
- ・まなびネットによるレポート草稿へのコメント。調査票調査の実施
- ・幼稚園教諭科目なので、幼児が遊びながら学ぶように学生を指導した。残念ながら、昨年、今年はオンラインでうまくできていない。
- ・「協働板」機能を活用し、学生が作成した動画について、教員や学生が相互にコメントし合うことができるようとした。

問6：AL授業（遠隔授業）でどのような工夫をされましたか②

- ・Teamsとまなびネットを最大限活用し、対面+リアルタイム配信+録画機能を用いたオンデマンド配信によるハイブリッド型の遠隔授業をじっしすることで、受講生がどのような環境・状況においても一律に授業参加できるよう工夫した。
- ・特に、主体的な学びを深めることを目的として、資料や事例などを中心に参考サイト等を積極的に紹介し、前向きに遠隔授業に参加できるよう配慮した。
- ・随時、チャット機能などを活用して双方の遠隔授業を心がけた。
- ・学生が自ら課題を設定し、その課題解決の方法を探求できるようなレポートを課した。
- ・学生とのコミュニケーションを図るため、まなびネットにおける質問や応答を毎回できるようにした。
- ・遠隔授業では学生同士の交流は難しかったが、他学生のレポート内容をできるだけ紹介するようにした。
(学生には承諾を得て、ネット上なので匿名での紹介とした。)
- ・提出された課題に対する意見記述を授業資料内に掲載し、学生が自分の意見と比較し、考えを広げたり深めたりできるようにしている。
- ・受講した学生が受け身にならないように、学生が主体的に考え、行動できるように配慮した。
- ・学生の授業コメントを紹介し、共有する。また、学生から出た疑問を、全体が考える課題として共有する。
- ・毎回終了時にはふりかえりシートを記入してもらい、それを最後の授業で学生自身が見直すことで、実習の整理を行う。課題解決に向けて、グループディスカッションを主体的に深めていくことで、チームワークを構築していく、最後にチームの構築の過程を客観的にとらえる。子どもとの接点を大切にするために、子どもの意見・感想の場と大学生の意見・感想の場をグループまたは全体の場において時間を作っている。
- ・(総合的な学習の時間指導法)・小グループで総合の単元構想を作成し、ICT機器を使ったプレゼンテーションを行い、学生相互に意見交流を行った。また、総合の指導案を個人で作成し、グループ内で相互評価を行った。(生活科教育内容A)・各自で制作した(廃材を活用した)「おもちゃ」を用いて、学生同士で遊んだり、意見交流を行った。仲間からのアドバイスを得ることで気付きを深めるとはどういうことかを実感的に学べるようにした。
- ・講義内容を伝えるだけでなく、受講する学生が自分が実践する場合を想定して講義内容に関わる課題を設定し、その解決に向かう指導計画や学習支援策をレポートにまとめるようにした。
- ・遠隔授業でも体験型ワークショップを必ず取り入れていた。
- ・受講者が毎時コメントシートを記入しその内容を教員が次時に紹介する形で受講生で共有できるようにした。
- ・事前の郵送による教材配布、ZOOM(ブレイクアウト含む)によりリアルタイム授業、グーグルメール、等あらゆるシステムをつなぎ、アクティブラーニングを実現した。
- ・遠隔授業であっても、本時の授業のねらいに応じた課題を設定し、学生が授業資料及び、自分なりの思考力・表現力等を通して解決しようとした回答を返すようにした。さらに、その課題に関して、次の授業配信時に、各自の考え方や回答を紹介しつつ、回答というより回答を導く考え方を示した。
- ・感想カードなどを次の回で紹介するなどして、クラス全体で共有するようにした。事例検討では、リアルなクライエントの困難な状況について、イメージできるよう、また支援の実際を理解できるよう、施設訪問・見学が難しいコロナ禍ということもあり、映像資料を活用するようにした。

問6：AL授業（遠隔授業）でどのような工夫をされましたか③

- ・遠隔でのグループワークが困難であったため。学生の授業コメントを授業内で紹介し、発展的な問い合わせするようにした。
 - ・感想を課題とし、それに次回講義で応答するようにした。
- ・一方的な授業にならないよう、毎回学生が自分自身の視点で今まで授業をどうとらえて来たか、また過去受講した授業を振り返りインストラクショナルデザインに当てはめると、どのように改善することができるか等、学習内容を活用できるよう工夫しました。
- ・Microsoft Teams ならびにFormsを使用して授業資料配付、閲覧、編集、提出物、テストなどの方法に触れた。社会に出てからの一般的ビジネススキルとしての基本操作についての習得を目指した。
- ・まなびネットにて講義資料を提示し、それについてグループ学習に取り組んでもらい、成果をまなびネットにアップし共有した。現場でもメールやSNSなどを活用して職員間でコミュニケーションをとっているため、学生間でも同様に活用してグループ学習に取り組んで欲しかったが、こちらの意図は外れ、学生にとってはコミュニケーションの中心は学校で顔を合わせるタイミングであったようで、こちらの工夫に対してあまりよい結果が得られたと感じていない。学生のニーズもふまえつつ、来期以降も方策を考えたい。
- ・Google フォームなどを使用して学生が他の学生の意見などを見て考えられるような工夫をした。
- ・実技重視　・You Tube の動画講義をよく用いた　・フィードバックを活用
- ・オンデマンド授業における、課題設定上の工夫（最適化によるスリム化など）
- ・課題に対して、確実にコメントをつけるようにした
- ・課題担当者の学生が作成したレジュメをネット上に公開し、それを参考資料として、学生各自が課題に取り組めるようにした。
- ・直接の話し合いができないので、お互いの意見やリサーチの内容をこちらでまとめて丁寧にフィードバックしています。また、遠隔授業の後に遠隔授業の内容を生かした対面授業を行っています。
- ・グループプレゼンテーションは学生主体ですすめ、各グループでわかりやすいプレゼンの工夫をしてもらいました。
- ・生活科教育法の授業で、学生が身近な地域における「まちたんけん」を行い、各自スライドを作成した。作成したスライドに対して、感想交流を行った。
- ・学生それぞれが、問題や課題について1つあげ、解決方法を資料を用いてまとめさせます。まとめたものをグループで発表し合います。話し合うことで、新しい視点から考えたり、取り組み内容を深めたりしています。また、前回の授業で取り組んだ課題やミニレポートを、次回の授業で使い、グループや全体で取り上げ、自分なりの答えを見つけるようにしています。各自が取り組んだ内容でさらに知りたいこと、深めたいことや、授業でタブレット型端末をどのような形で用いることができるのかなどといった疑問、課題を、最終レポートにつなげるようにしています。
- ・語学の授業なので、音声学習に重点をおきました。教材のDVDを視聴させて、登場人物が話すナチュラルな英語ができるだけ習得させるようにしました。
- ・遠隔により問題提起をし、関連知識が得られるような指示や内容を伝えたあと、対面授業でそれを議論や演習を行い学びを深められるよう工夫した。いわゆるハイブリッド授業を試みた。

問6：AL授業（遠隔授業）でどのような工夫をされましたか④

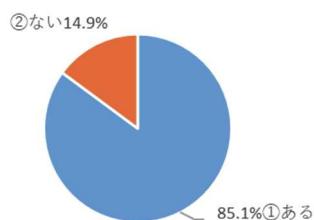
- ・本来の対面授業であれば、グループディスカッションを取り入れたかったが、2021年度はオンデマンドでの遠隔授業としたため、毎回リアクションペーパーの提出を求め、次週に回答するかたちで、学生からの質問や意見・分析から議論を広げていった。
- ・指導案作成(小学校社会科)を中心に行ったが、まなびネットのメール機能等を使い、個々の学生とのやり取りやグループ内の学生同士での意見交換等を行った。上記の過程を経た後、対面授業において模擬授業を繰り返した。
- ・遠隔授業を4コマ担当しています。社会科教育法および社会科教育内容という授業です。毎回の学修内容に対して所感を提出することを求めていました。その際、学修内容から考えられる小学校社会科の授業構想を書くように求めました。そうすると、各学生の個性あふれる実践構想が書かれた所感が送られてきました。特によく考えられた構想や実践のアイデアがある所感を、課題提出ホルダーへ載せて、学生間で共有するようにしました。他の学生たちは、それを読んで参考にして、次の学修からまた授業構想を考えるという、まなびネットを介した所感の交流が図られています。
- ・スライドショー、LINEを使ってポルトガル語での文章作成、メールやLINEでの連絡、パワーポイントを使って発音のチェックなど
- ・ワークシートと教科書を併用し自学自習できるようにした
- ・学生が考えたり、書いたりする内容を設定し、主体的に学ぶようにした。また、教員を目指す学生にとって、大学での学びをどのように現場で生かすかといった学びが実践に結び付くことが大切と考え、具体事例を出したり、学生自身の経験を想起させたりしながら、教師としてのイメージをもつことができるようとした。
- ・模擬授業を撮影し、その動画をTeamsに提出するという課題。また、モデル授業の動画をYouTubeで見てそれのふりかえりを書き、模擬授業に生かした点。
- ・ディスカッションをする前の回に課題を提示し、課題レポートとして各自課題について考えたことを書いてきてもらい、それを上台にして小グループ（3～4人）での話し合いを行った。グループでの話し合いがある程度進んだところで、クラス全体で話し合いの内容を共有したり課題を整理したりし、その後再びグループでディスカッションを深め、最後にクラス全体で共有してまとめを行う、という形式で進めた。
- ・本を読める環境を、図書館との共同で策定し、読むだけでなく、書く、話す、聞く活動を取り込んで、思考するレポートを書かせました。6冊以上の本について、6点以上のミニレポートを書かせ、最終的に2冊以上の内容を含めたレポートを提出するように指導しました。ALの活動自体を、シンプルなものにしたことで、受講生は自律的に活動を積極的に行いました。
- ・学生同士が英語で会話する場面設定
- ・調べたものを発表させた。
- ・教員が毎回の授業で出す課題に対する学生の回答に対して、LMS経由で毎回講評を出す。また、学生の回答のうち注目すべきものがあった場合には、それをピックアップして学生に紹介し（回答者名は伏す）、一つのテーマに対する多様な思考を学生に体験させる。こうした一連のやりとりを、授業動画の中でも言及し、次回以降の授業内容に反映させる。
- ・学生自身が先に体験をし、それをふまえて問題解決できるような取り組みを工夫した。
- ・学生が情報を収集する。全員によって収集された情報に基づいてさらに課題を行う。

問6：AL授業（遠隔授業）でどのような工夫をされましたか⑤

- ・説明のみならず、間に設問を挟むことで、展開と設問の関連がわかりやすいうにした。
- ・主体的に学習に取り組めるようなワークシートの工夫 ・自ら課題を発見できるような解答例の提示
- ・深い学びにつながる他学生の解答例の分析 ・ALの大切さを気付かせる便りの発行
- ・できるだけ直感にうつたえるような説例動画の作成 ・授業時間以外での質問受付
- ・学生の負担にならない課題を課すこと ・今年度は特別な工夫は行なっていない
- ・オンデマンド型を中心にスライド対面で行う内容をメモに記入し、学生の理解を深めるようにした
- ・動画を準備しICT関連の操作演習を繰り返し行なえるようにした
- ・相互評価をまなびネットで行なうなど ・学生同士のコミュニケーション議論など
- ・フォーラムや相互評価等、学習者同士がオンデマンドで互いの考えに触れる機会を設定した
- ・Teamsを利用して質問を直接受けられるようにした ・学生の意見をできるだけ引き出す
- ・必ず振り返りをさせて、提出させている。双方向になるようする。 ・感想を次回教材に反映される
- ・毎回小テストするなど、受講確認と内容の定着を行なった ・自分で課題を設定して実施する内容にしている
- ・授業は情報提供と、教材提供、司会はするが（グループディスカッション）、考え方行動するのは受講者
- ・シュミレータを用いた実習内容の遠隔体験 ・別途、学習カウンセリングを個別に行った
- ・将来の教師としてより浅く深く知って欲しかったので、普段では学習しないであろう内容まで踏み込んだ。
- ・教員になった時を意識して授業を受ける様に指導していました。
- ・オンデマンド授業において、各回のテーマに対する学生からのレポート（800字以上と設定）の一部を教員が抜粋し、毎回、匿名で共有した。レポートの一部抜粋にあたっては、できる限り学生の多様な気づきとともに、異なる意見を可視化できるように配慮し、さらには、質問への回答や補足資料を盛り込むよう心がけた。
- ・ジェンダー・セクシュアリティをめぐる多様な問題に対して、受講生が当事者性を感じそれらの問題の解決について考えられるよう教材を作成した。
- ・オンラインで直接顔を見る、話すことができないのでビデオの始めに一人一人名前を呼んだ。常にまなびネットをチェックし、レポート提出の状況、質問メールを確認した。がんばりを後押しするメールを何回も送付し、グループでの学習を勧めた。学習内容に関連する動くおもちゃの動画を多く紹介した。研究（卒論）を意識させる内容を取り入れた。研究のテーマを見つける方法、研究の手法を紹介した。
- ・競技経験を活かした内容を、学生の視点で消化できるように工夫して臨んだ。毎回の授業始めに振り返り学習を取り入れる等、学生にとって新たな知見になり得る部分への理解を深められるよう工夫した。グループワーク学習では、個々の役割において責任を果たすことで、課題解決できるように工夫をした。
- ・遠隔と最後に対面を併用していたので遠隔（動画）での授業では、技術の進化を伝えてそれに付いての、技術を深く調べて考察を展開する流れのレポートを提出させた。
- ・遠隔授業から対面授業へつながるような講義を展開できるように考えて動画講義と対面講義を考慮して、対面では体験学習を通して、実物を知って、技術を知って、体験で知ることの楽しさを実感できるように展開した。

問7～問12 大学院授業についての質問**問7 担当している全科目（学部）に、ALの要素を含む授業はありますか？**

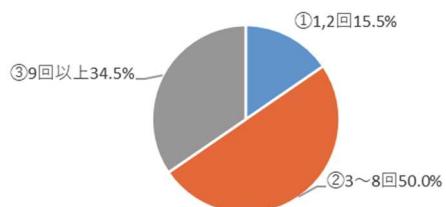
問7 担当している全科目（大学院）に、4つの視点のうち少なくとも1つを含むALの授業はありますか？



選択肢	%	回答数
①ある	85.1%	110
②ない	14.9%	9

問7で、「ある」と回答された方**問9 同一科目の全授業回数（16回）の内、4つの視点のうち少なくとも1つを含むAL授業の平均回数はどの程度ですか？**

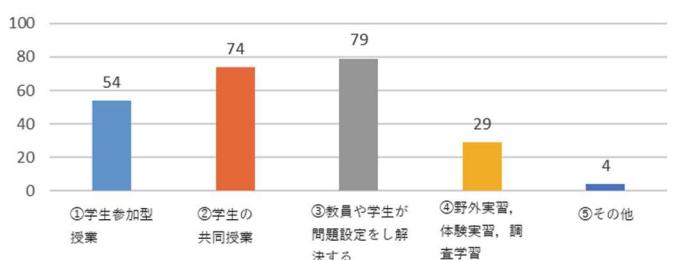
問9 同一科目の全授業回数（16回）の内、4つの視点のうち少なくとも1つを含むAL授業の平均回数はどの程度ですか？



選択肢	%	回答数
①1,2回	15.5%	17
②3~8回	50.0%	55
③9回以上	34.5%	38

問10 4つの視点のうち少なくとも1つを含むAL授業の中で、取り入れている授業形態を教えてください。（複数回答可）

問10 4つの視点のうち少なくとも1つを含むAL授業の中で、取り入れている授業形態を教えてください。（複数回答可）



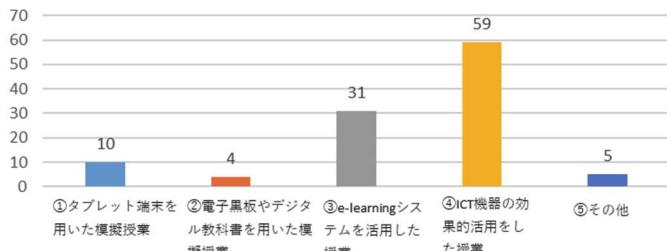
選択肢	回答数
①学生参加型授業	54
②学生の共同授業	74
③教員や学生が問題設定をし解決する	79
④野外実習、体験実習、調査学習	29
⑤その他	4

問10 ⑤その他

- ・附属を活用した授業 ・実験・実習
- ・カウンセリングや心理療法を動画で撮り、動画を視聴しながら討論した。
- ・学びの実践および終了後の課題意識につながるよう指導・助言した
- ・個人のレポート発表と教員との対話

問11 4つの視点のうち少なくとも1つを含む AL 授業の中で、デジタル機材を使用した授業形態を教えてください。（複数回答可）

問11 4つの視点のうち少なくとも1つを含むAL授業の中で、デジタル機材を使用した授業形態を教えてください。（複数回答可）



選択肢	回答数
①タブレット端末を用いた模擬授業	10
②電子黒板やデジタル教科書を用いた模擬授業	4
③e-learningシステムを用いた授業	31
④ICT機器の効果的活用をした授業	59
⑤その他	5

問11 ⑤その他

- ・テレビ会議システムの活用 ・まなびねっと、zoom ・スマホ ・パソコンを使ったスライドレクチャー
- ・他種職連携ハイブリットシミュレータ SCENARIO を用いた学習 ・ロイロノート使用
- ・資料の収集にネットワーク環境を利用した

問12 AL 授業（遠隔授業）でどのような工夫をされましたか。（自由記述）**問12 AL 授業（遠隔授業）でどのような工夫をされましたか①**

- ・課題図書・レポート、年間指導計画とカリキュラムマネジメントの枠作成（現場で使用できる）
- ・フォーラムでのディスカッション ・プレゼン
- ・リアルタイム zoom teams の授業の活用
- ・フォーラム機能を用いたまなびネット上でのグループディスカッションを行なった
- ・受講生同士がディスカッションできるようにした。
- ・受講生同士でそれぞれが作成した指導案にコメントできる場を持った
- ・対面で3密に注意して講義したため、遠隔授業は行なっていない
- ・すべての授業の資料や動画等をいつでも学生は e-learning で参照できます。
- ・学生の主体的対面的学びを行なえるようにします。

問12 AL授業（遠隔授業）でどのような工夫をされましたか②

- ・実技重視　・ラインビデオ会議も活用した　・対面のみ　・授業時間以外での質問受付
- ・課題に対しては確実にコメントを返すようにした
- ・まなびネットを用いて「模擬授業視聴→ディスカッション（フォーラム使用）」
- ・販売されている授業DVDを視聴し、ディスカッションの後、改良指導案を作成、発表するという授業形態を取り入れた
- ・人数が少ないこともあり、Zoom、Teamsなどのオンライン会議を使用し、対面と同じように指導を行なった
- ・反転授業等　・特になし　・学生が主体的に調査学習を行う
- ・授業者として教材・課題・情報提供、グループディスカッション時の司会をするが、考え方行動するのは受講者
- ・外国からの受講者（コロナで入国不可）でも演習可能Web教材の利用
- ・困ったとき、相談できるような関係性を意識してかかわっています。